



LSVT®BIG

リー・シルバーマン療法

LEE SILVERMAN VOICE TREATMENT





最近、こんな症状に 困ってないですか？

歩幅や腕の振りが小さくなったと言われる
立ち上がって最初の一步がなかなか出ない
姿勢が悪くなってきた
ボタンを留めるのに時間がかかる
自分の書いた文字が小さくて読みづらい

LSVT®BIGは、「大きく動くこと」に治療の焦点を当てた 動きの遅さと動作の大きさの低下を改善するための運動プログラムです

パーキンソン病の4大徴候

手足が震える
(振戦)



手足の筋肉が
こわばる
(筋強剛)



身体の動きが
遅くなる
(運動緩慢)



倒れやすくなる
(姿勢保持障害)
姿勢を保てなくなり
ます



LSVT (LEE SILVERMAN VOICE TREATMENT)

- パーキンソン病の諸症状に対するリハビリテーションプログラムです。1980年代に米国の言語聴覚士によって考案され、現在では有効性の高いリハビリテーションプログラムとして世界的に知られています。発話や身体機能を改善し、症状進行をさらに遅らせる可能性があります。
- LSVT®にはLOUDおよびBIGと呼ばれる2種類のリハビリテーションプログラムがあり、LSVT Globalより認定を受けた言語聴覚・理学療法士・作業療法士によって実施されます。

LSVT®LOUD : パーキンソン病やその他の神経学的症状のある方々の発話の改善を目的としたリハビリテーションプログラムで、言語聴覚士が担当します。

LSVT®BIG : パーキンソン病の方の身体動作の改善を目的としたリハビリテーションプログラムで、理学療法士・作業療法士が担当します。

LSVT®BIGとは

LSVT®BIG認定セラピストとの1対1の個別訓練を、**1回60分、週4回連続、4週間にわたって実施**

身体全体を大きく使った動きを反復回数行うプログラムと、日常動作や歩行が大きく行えるように繰り返し練習するプログラムからなる



LSVT®BIGの内容

最大日常課題

1. 床から天井 – 8回
2. 側方から側方 – 左右各8回
3. 前方へのステップ – 左右各8回
4. 側方へのステップ – 左右各8回
5. 後方へのステップ – 左右各8回
6. 前方への揺れ動きとリーチ
左右各10回(最大20回まで)
7. 側方への揺れ動きとリーチ
左右各10回(最大20回まで)

機能的要素課題

5つの毎日の課題 各5回

(例) 立ち上がり、浴槽をまたぐ、ボタンを留める

階層的課題

患者さんごとに異なる課題

(例) ベッドから起きる、ゴルフをする、車の乗り降り

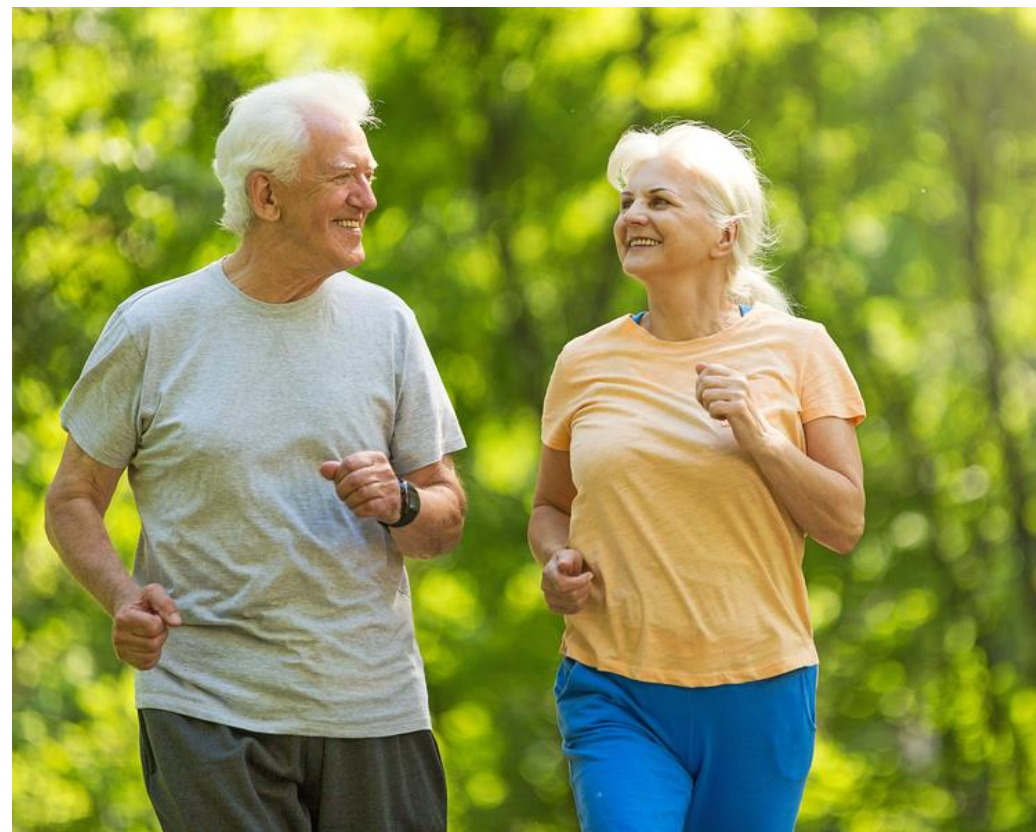
大きな歩行法

大きな歩幅と腕の振りを意識して歩く

LSVT®BIGの治療目標

大きな動きを集中的に訓練することで、
動きの遅さや動作の大きさに代表される
運動障害を改善する

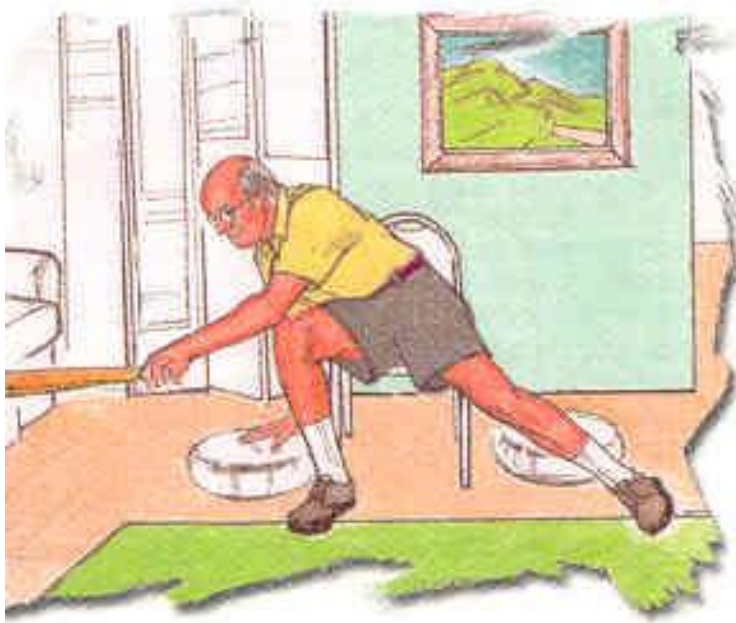
運動の適切な大きさを認識・修正する能
力を改善する。正常と感じている「小さい
動作」を、大きいと感じる「正常な動作」へ
と改善する



LSVT®BIGの最終目標は、日常生活で大きな動作が行えるようになること！

注意事項

- LSVT®BIGは4週間、週4日連続で訓練を行う必要があります、当院の場合は通院が必要となります。必ず交通手段の確保をお願いします。
- 訓練期間中は、毎日の課題も義務付けられますので、何より本人の強い意志が必要となります。
- 一旦プログラムを開始されても、患者さんの意思により途中でやめることも出来ます。
- 大きな動きで訓練を行いますので、関節痛や筋肉痛などの症状を伴うことがあります。



LSVT®BIG 4週間プログラムを終えた人の感想

- Aさん（男性） LSVTは楽しかった。全然違う。（大きく）意識すれば足がすくまなくなった。
- Bさん（男性） 大きく歩けるようになったとほんとうに思う。体力もついた。
- Cさん（女性） 換気扇のスイッチになかなか手が届かなかったのが届くようになった！

ぜひご検討ください

LSVT®BIGを受けてみたいという方は、当院までご連絡ください。

ご相談のみでも構いません。

他院からのご紹介にも対応いたします。

さくま内科・脳神経内科クリニック 担当；理学療法士 秦（はた）

TEL 0859-30-2000 FAX 0859-30-2001

